

令和8年度 学校自己評価

中津市立深水小学校

評定判断基準
 A …達成率90～100％
 B …達成率70～ 89％
 C …達成率60～ 69％
 D …達成率60％未満

1 学校の教育目標

ともに学び 未来をひらく 深水っ子の育成

2 育成を目指す資質・能力

自己調整力 ・ 協働的思考力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	○成果と●課題、及び☆次期（次年度）に向けての取組
基礎基本の定着（もって学びたい）	①国語・算数の単元末テスト漢字80%以上言語80%以上 ②「授業がわかる」と回答する児童が90%以上	学校	◇児童が「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくり ◇個別最適な学びの保障	○授業者は、国語の授業のはじめの5分間範読し、交互読み、追い読みをする。 ○授業者は、算数で単元の指導計画に合わせた評価基準を作成し、児童に振り返りを記入させる。 ○学級担任は毎日、個に応じた学習時間を保障する。 （AIドリルや個別の弱点に特化したプリントなどを朝学習や授業の終末に使用） ○朝学習で言葉のフラッシュカードを使い、児童の言語能力を高める。	B	○5分間音読や朝学習、AIドリル、個別プリント等を継続し、基礎基本の定着に向けた学習を日常化することができた。 ○漢字・言語テスト 漢字：3/5人、言語4/5人が目標達成できた。 ●「授業がよくわかる」と回答した児童は4/7人で、「わかる」から「よくわかる」へ高める授業改善が必要である。 ●家庭学習について、保護者アンケートではA43%にとどまっている。 ☆AIドリルや個別プリント等を活用し、一人一人のつまずきに応じた学習を継続する。 ☆授業終末の振り返りを充実させ、「何が分かったか」「何ができるようになったか」を児童自身が自覚できる授業づくりを進める。
		家庭 地域	◇基本的な生活習慣の確立 ◇学習への積極的支援	○保護者は毎日「早寝・早起き・朝ごはん」を続ける。 ○保護者は「子どもの家庭学習の取組」を毎日確認する。 ○地域は見守りや登校支援、学校への活動に積極的に支援する。	A	○早寝早起き朝ごはんは定着できている。今後も継続。 ○地域から、登校見守り、読み聞かせ、授業支援、環境整備等、多くの支援が得られた。 ●家庭学習の定着に家庭差が見られる。 ☆家庭学習チェックカード等を活用し、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化を図る。
協働的に課題を解決する力の育成（もって貢献したい）	③「友だちと一緒に学ぶのが楽しい」⇒80%以上 ④「失敗しても、あきらめずに挑戦している」⇒90%以上 ⑤学習や活動の振り返りを「みんなの前で発表することができる」⇒80%以上	学校	◇協働的な学びの時間の充実 ◇背伸び活動の推進	○「発言・発表マニュアル」を活用した発言・発表の場の設定 ○国語、算数は、単元ごとに多様な活用問題に取り組ませる。 ○担任と学校図書館司書が協働して、「背伸び読書」及び「すきま読書」に取り組ませる。（週2回以上） ○新聞ワークシートを週に1回以上使用する。	A	○ペアやグループでの話し合いや振り返りでは、自分の考えを進んで伝える姿が見られるようになった。 ○活用問題、新聞ワークシート、「背伸び読書」「すきま読書」等を継続し、多様な文章や課題に触れる機会を設定できた。また、おすすめの本の紹介やブックトークなど、読書を通して考えを伝える活動も実施できた。 ●全体の場で自信をもって発表できない児童がいる。「振り返りをみんなの前で発表できる」は4/7人。 ●「友達と一緒に学ぶ楽しさ」「失敗しても挑戦する」といった項目も低下。主体性や挑戦する意欲を高める必要がある。
		家庭 地域	◇各教科・総合的な学習の時間、特別活動等への学習支援	○家庭は長期の休み（連休を含む）に、親子読書活動に取り組む。 ○地域は、学校行事や授業に積極的に参加・支援し、学習内容に応じてゲストティーチャーとして授業支援を行う。 ○学校が作品を発表できる場を作り、交流を深める。	A A	☆「一人で考える→ペアで伝える→全体で伝える」など、段階的に発表できる学習過程を意図的に設定する。 ☆ICTも「発表するため」だけでなく、考えを整理したり友達の考えと比較したりする道具として活用する。 ☆振り返りの発表を授業の中に位置付け、全児童が自分の考えを表現する機会を保障する。
協働的に課題を解決する力の育成（もって貢献したい）	⑥「友達と協力しながら、すすんで学んだり運動したりしている」⇒90%以上 ⑦「地域や家族のために役に立っている」⇒80%以上	学校	◇児童会活動を通じた自主的・創造的な活動の推進 ◇豊かな体験活動の充実	○学校生活上の課題を見つけ、全校学活や児童総会で、改善を図るための話し合いをさせる。 ○思考の整理や話し合い、発表の場面でICTを活用する。 ○協働的に課題を解決できるような体験活動を仕組む。（月1回以上） ○学期に深水子供応援団活動を実施する。（2回以上）	A	○全校学活や児童総会を定期的 to 実施し、学校生活の課題について話し合い、改善を考える機会を設定できた。 ○地域の方々による読み聞かせ、田植え、書写指導、プール清掃等、地域と協働した教育活動を継続することができた。 ○「友達と協力しながら進んで学んだり運動したりしている」は6/7人で、協働する姿が定着。 ●「地域や家族のために役に立っている」と実感している児童が2/7人に低下。
		家庭	◇家族の一員としての役割分担の明確化	○保護者は学校行事を把握し、面談や連絡メール等で日常的に連絡・調整を行う。	A	○保護者アンケートで「頑張りを認め、褒める」がA86%。家庭で子どもの成長を支える姿勢が見られる。
		地域	◇深水子ども応援団活動の継続	○深水子ども応援団活動（道徳、総合的な学習、環境整備等）に参加し、児童とコミュニケーションを図り、児童の活動意欲を高める。	A	○地域の学校支援を継続してもらう。 ●児童の学びや成長を地域へ還元する仕組みをさらに充実させる必要がある。 ☆深水子ども応援団等の活動後に、児童が学んだことを地域の方へ発表・発信する場を設定する。
子どもと向き合う時間確保のための「業務改善」	【共通項目】ストレスチェックの健康リスク（量・コントロール）の値を100以下 ⑧時間外在校時間平均月28時間以内	学校	◇会議時間内の効率的運営	○各種資料の電子データベース化による事前共有 ○各種活動や行事等の来年度用の直後プランの作成 ○会議は水曜日14:45～、上限を60分以内に設定	C	○資料の電子化・事前共有、会議時間の上限設定等、業務の効率化に取り組んだ。 ○個別業務タイムの確保については一定の成果が見られた。 ☆会議や行事の効率化だけでなく、「やめる・減らす・統合する」の見直しが必要。
		家庭	◇サポーターとしての保護者主体の活動	○保護者は学校行事を把握し、面談や連絡メール等で日常的に連絡・調整を行う。	A	○連絡・案内文書の電子化など、学校業務のデジタル化を進めることができた。
		地域	◇学校運営協議会の充実 ◇PTA準会員としての学校支援	○各種会議では、建設的な意見等で形成を図る。 ○毎月8日の三光あいさつ運動に参加したり登下校の見守りをしたりする。 ○積極的に学校の活動に参加する。	A	○学校と連携し、協力的な意見を述べて、活動ができている。通学路の整備要望や8/23通学路草刈 ●三光あいさつ運動については参加者が固定化している。☆周知方法検討

生きて働く知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力の育成

学びに向かう力、人間性等の涵養

働き方改革の推進